

「ほんご」であそぼう くげんだいぶんのきそく

第三回 評論①

「きのこ」「たけのこ」と聞くと、多くの人が思い浮かべるのはチョコレート菓子だろう。これらは、数あるチョコレート菓子の中でも絶対的存在感を放っている。これらは、お菓子の愛好家たちの支持の元、菓子業界の厳しい生存競争に二つ揃って勝ち残ってきた。いわば、菓子業界の「両横綱」ともいうべき存在である。もちろん、これら両者同士も味方というわけではなく、最も身近で最も大きな敵同士として度々東西陣営に分かれ、「きのこたけのこ戦争」を起している。

では、菓子業界の「両横綱」のアイデンティティとは何なのだろうか。まず、両者の支持層がどう違っているのだろうか。両横綱の支持者は「きのこ山」が三〇〜五〇歳代に多く、「たけのこ里」は若年層に多い、というデータがある。支持者たちがそれぞれお菓子に求める要素は何か。

「きのこ山」は一九七五年に誕生した。チョコレートに塊に棒状のクラッカーが差し込まれた形状で、それぞれがかさ、石づきを表現している。塊のチョコレート味の強いため、チョコレートを好む人に多く選ばれている他、昔から変わらない、甘さを抑えたクラッカーの味がヘビーマスターを引きつけていると考えられる。

一方「たけのこ里」は、一九七九年の誕生である。特徴的なのが、たけのこの可食部に当たるクッキーである。そのクッキーを包むように皮に、見立てたチョコレートがかけられている。チョコレートがクッキー全体に薄く広がっているため、クッキーとの一体感がある。したがって、「たけのこ里」はそのサクサクとした甘いクッキーを好む若者に広く受け容れられているのであろう。